科目コード	51181002	単位	2	時間数	30
授業科目名	くらしと法Ｂ－法学－	開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Introduction to Law : B				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 Ｂ・Ｃ	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3‐328	018-889-2659				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日　11：00～12：00	【場所】	教文3‐328室

授業の目的	授業の到達目標
法学一般に共通する基本的な知識・思考力を身につける。	法学科目を学ぶ際に必要な基礎的・基本的な考え方と知識を身につける

カリキュラム上の位置付け	法律諸科目を学ぶ際の共通の基礎となる科目である。
授業の概要	法学入門のための定評ある教科書の読解を通じて、身近な話題を素材としながら、法学に関する基礎的な知識・思考力を涵養する。
授業の進行予定及び進め方	授業計画 第1回　法学を学ぶにあたって 第2回　法と習俗① 第3回　法と習俗② 第4回　法と道徳① 第5回　法と道徳② 第6回　法と宗教 第7回　法規範の特色 第8回　法源①制定法 第9回　法源②慣習法 第10回　法源③判例法 第11回　法源④条理・学説 第12回　法の適用－紛争解決のメカニズム 第13回　法の解釈①法解釈の意義 第14回　法の解釈②法解釈の方法 第15回　法の解釈③法解釈学の科学性 第16回　定期試験

授業に関連するキーワード			
	法	法学	法規範
	社会規範	法源	法の解釈
	法の適用		

成績評価の方法	100点を満点として、期末試験（80%）の成績と学習への積極性等に基づく平常点（20%）の合計60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『法学入門〔第3版〕』	五十嵐清	悠々社	2005
	参考書	『プレップ　法学を学ぶ前に』	道垣内弘人	弘文堂	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	あらかじめ教科書を読んでから授業に出席すること。
自由記述欄	受講の際は、六法（小型のものでよい）を必ず持参すること。

科目コード	51182003	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本国憲法C	開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Constitutional Law:C				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2・3・4年		
内容的に密接に関係する授業科目	くらしと法A・B	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小野寺倫子	教育文化学部	教文3-328	018-889-2659				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日11：00～12：00	【場所】	教文3－328

授業の目的	授業の到達目標
日本国憲法の基礎的理解	1）憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2）日本国憲法の基本構造を説明できる。 3）各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	憲法の理念と現実という問題を意識しながら，日本国憲法の入門的解説を行う。
授業の進行予定及び進め方	授業計画 第1回　憲法の意義及び特質 第2回　国民主権と天皇制 第3回　平和主義 第4回　国会の地位及び構成 第5回　国会及び議院の権能 第6回　内閣の地位、組織及び権限 第7回　司法権の独立、裁判の民主的統制、違憲審査権 第8回　地方自治 第9回　基本権の観念と種類 第10回　基本権の享有主体と私人間効力 第11回　基本権制約の法理 第12回　精神的自由権 第13回　経済的自由権 第14回　社会権、参政権、受益権 第15回　包括的基本権、平等権 第16回　学期末試験

授業に関連するキーワード			
	日本国憲法	国民主権	基本的人権
	平和主義		

成績評価の方法	学期末試験の結果（80%）及び学習態度（20%）による。総合60%以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『憲法入門』	長谷部恭男	羽鳥書店	2010
	参考書	『プレップ　法学を学ぶ前に』	道垣内弘人	弘文堂	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	参考文献は適宜示す。　最も小型のものでよいから，「六法」を用意すること。
自由記述欄	

科目コード	5100071	単位	2	時間数	30
授業科目名	現代社会と経済ＩＢ－経済学入門－	開講学期等	後期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Modern World and Economy IB:Introduction to Economics				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目	ミクロ経済学、マクロ経済学、経済学概論、日本経済論	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
荒井壮一	地域社会講座	3-326	2657				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜5・6	【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
日々のニュース・新聞記事等で見られるように、現代社会が直面する経済問題は多種多様である。経済学の知見を学ぶことを通して、そうした問題を自らの頭で考えていくための土台を築くことが、本講義の目的である。	・近代経済学的なものの見方を理解し、説明できる。 ・日本経済の歩みの中で、金融システムに生じた変化について列挙できる。 ・現代社会における様々な経済問題を考えるための視点を身につける。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	主に扱う話題は、代表的な近代経済学の概要と、特に金融システムの変化に焦点を当てた日本経済の歩みである。こうした学問的な背景および歴史的な背景を踏まえた上で、現代社会における主要な経済問題について解説を行う。
授業の進行予定及び進め方	第1回　イントロダクション 第2回　経済学とは何か？（１）：アメリカ自動車産業と経済学 第3回　経済学とは何か？（２）：資本主義・社会主義と経済学 第4回　経済学とは何か？（３）：ケインジアンと新古典派 第5回　日本経済史と金融システム（１） 第6回　日本経済史と金融システム（２） 第7回　日本経済史と金融システム（３） 第8回　日本経済史と金融システム（４） 第9回　日本経済史と金融システム（５） 第10回　現代経済の焦点（１）：市場型間接金融システムと金融政策 第11回　現代経済の焦点（２）：経済のグローバル化と産業構造の変化 第12回　現代経済の焦点（３）：構造的失業と雇用 第13回　現代経済の焦点（４）：金融危機の国際連動性 第14回　現代経済の焦点（５）：中国経済とシャドウバンキング 第15回　まとめ 期末試験
授業に関連するキーワード	
成績評価の方法	講義中に行う小テスト40%、期末試験60%で評価する。総合60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	テキストは特に指定しない。適時レジュメを配布する。
自由記述欄	

科目コード	51192002	単位	2	時間数	30
授業科目名	現代社会と政治Ｂ	開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Modern Society and Politics B				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中澤　俊輔	教育文化学部	教育文化学部3号館327	018-889-2658				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休み	【場所】	教育文化学部3号館327

授業の目的	授業の到達目標
政治学の基礎を学びながら現代政治に対する理解を深める。	政治学の基礎を習得する。 現代社会における政治的な事象を論理的に考察する力を養う。 現代の日本政治を歴史的な過程を踏まえて理解する。

カリキュラム上の位置付け	政治学の基本的な考え方を学んでいただきます。
授業の概要	【授業の概要】 前半は現代の政治を構成する概念と制度について説明します。第1～8回 後半は現代に至る日本政治と国際政治の歩みについて説明します。第9～15回
授業の進行予定及び進め方	【授業の進行予定及び進め方】 第1回　オリエンテーション 第2回　デモクラシー 第3回　リーダーシップ 第4回　選挙 第5回　議会 第6回　政党 第7回　官僚 第8回　メディアと世論 第9回　日本政治　①戦後政治の起源 第10回　日本政治　②55年体制（上） 第11回　日本政治　③55年体制（下） 第12回　日本政治　④政治改革 第13回　日本政治　⑤民主党政権 第14回　国際政治　①国際秩序 第15回　国際政治　②グローバル化 期末試験

授業に関連するキーワード			
	デモクラシー	リーダーシップ	選挙
	議会	政党	官僚
	メディア	日本政治	国際政治

成績評価の方法	期末試験（70%）、レポート（30%）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『政治学』	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会	2012

教科書・参考書等に関する記述欄	授業は毎回配布するレジュメに沿って行います。上記以外の参考文献はそのつど紹介します。
自由記述欄	

科目コード	51192004	単位	2	時間数	30時間
授業科目名	日本と諸外国の政治Ⅱ－比較政治－	開講学期等	後期	時間割	火5・6
授業科目名英字	Comparative Politics				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	国際資源学部	教育文化3－332	内線2604				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11時～12時	【場所】	教育文化3－332

授業の目的	授業の到達目標
社会科学の基礎としての比較政治の習得。	1. 社会科学の1分野としての政治学の基礎の習得。 2. 現時点の政治の歴史的背景を考察する視点の獲得。 3. 外国の政治状況を自分なりに整理する方法論の基礎の習得。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	ロシアと中国とのの政治の比較を通して社会科学の方法論を学ぶ。
授業の進行予定及び進め方	1回目～2回目　現時点のロシアと中国。権威主義体制，脱社会主義，社会主義体制堅持。 3回目～8回目　ソ連社会主義と中国社会主義。 9回目～10回目　社会主義体制の改革：ゴルバチョフと鄧小平。 11回目～12回目　脱社会主義のロシア：エリツィンからプーチンへ。 13回目～14回目　社会主義体制堅持の中国：ポスト鄧小平の動向。 15回目　冷戦後の国際政治におけるロシアと中国。

授業に関連するキーワード			
	社会主義	政治改革	市場原理の導入
	体制転換	国家的統一	権威主義体制
	権力党	民族問題	冷戦後の国際社会

成績評価の方法	基本的に試験

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『ユーラシア地域大国の統治モデル』	松里公孝他	ミネルヴァ書房	2013

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51222002	単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と家族－家族社会学の基礎－	開講学期等	後期	時間割	水3・4
授業科目名英字	Society and Family B:the Basis of Family Sociology				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石　沢　真　貴	政策科学	教文3-331	018-889-2616				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜14:30～16：00	【場所】	教文3-331

授業の目的	授業の到達目標
家族に関する諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察することで、現代社会への関心を高める。	家族に関する基礎知識を身につける。 社会集団としての家族の構造や機能を理解する。 家族をとりまく社会変化を理解する。 家族に関する社会制度を理解する。

カリキュラム上の位置付け	社社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目 社会学、特に家族社会学的内容
授業の概要	【授業の概要】 家族に関わる現代的諸問題について、家族とは何かを多角的に考察しつつ講義する。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1　ガイダンス 2　家族の定義 3　家族に関する基礎的概念 4　家族と法 5　家族に関する法の近年の動向 6　近代社会と「近代家族」 7　世帯構造の変化でみる現代家族 8　世帯構造変化の要因 9　家族機能の変化と家族問題 １０社会制度としての結婚 １１結婚に関する近年の動向 １２離婚・再婚に関する近年の動向 １３夫婦関係と性別役割分業 １４女性と労働 １５現代家族のゆくえ

授業に関連するキーワード			
	家族	近代	社会学
	社会制度	ジェンダー	

成績評価の方法	・授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない。 ・授業内の小レポート等の提出物を総合的な評価の際に考慮する場合もある。 ・総合的な評価の結果が６０点未満の場合は不合格Ｄとする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書は使用しない。 ・必要に応じて参考文献を紹介したり、プリント資料を配布したりする。
自由記述欄	

科目コード	51222003	単位	1	時間数	8
授業科目名	男女共同参画社会論	開講学期等	後期前半	時間割	月3・4
授業科目名英字	Theory of Gender equality				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡部育子	教育文化学部	3－325	2615				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日　７・８時限（用アポイント	【場所】	教育文化学部3－325

授業の目的	授業の到達目標
男女共同参画を推進する意義を学修し、社会人としてのキャリア形成やワークライフバランスの意識を涵養する。	1. 男女共同参画推進が社会理念となったことの意味を理解できる。 2. 自らが選択するワークライフバランスの下で仕事に邁進することの意味を理解できる。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	わが国の男女共同参画の実情と課題に関して、各界の講師がオムニバス形式で講義する
授業の進行予定及び進め方	第1回　秋田大学の男女共同参画推進について 第2回　労働行政から見る男女共同参画 第3回　秋田県の男女共同参画推進事業 第4回　企業における男女共同参画の取組 第5回　女性論 第6回　ジェンダーと男女共同参画 第7回　秋田大学若手女性研究者の提言 第8回　予備日

授業に関連するキーワード			
	ワークライフバランス	ダイバーシティ	男女共同参画

成績評価の方法	出席を重視する。 毎回、講義の内容および講義についての感想を書いて提出したリポートを総合的に評価する。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	講師の都合により、各回の内容が入れ替わる場合がある

科目コード	51232003	単位	2	時間数	30
授業科目名	心理学ⅡＢ－現代心理学の課題－	開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Psychology IIB-Introduction to Psychology-				
備考		授業の形式	講義・実習・学生	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	心理学Ⅰ	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
北島正人	教育文化学部	教育文化学部5号館207	018-889-2693	柴田　健	教育文化学部	教育文化学部5号館201	018-889-2673

オフィスアワー	【曜日及び時間】	要　事前予約	【場所】	研究室

授業の目的	授業の到達目標
心理学各領域の基礎的な理論や考え方を臨床心理学の視点を通して考えることにより，こころに対する理解を深めることを目的とします。	次の2点を到達目標とします。 （1）心理学の各領域の基礎的な理論や考え方を理解し，それを臨床心理学と関連づけて説明できる。 （2）日常生活で起こっていることを，授業で取り上げたトピックの範囲で心理学的な観点から考察し，理論立てて説明できる。

カリキュラム上の位置付け	心理学を学ぶことは，人間の活動についてさまざまな観点から理解することにつながります。何らかの対人的なサービスに携わるものにとっての基礎教育となります。
授業の概要	【授業の概要】 本授業は2名の教員によって行われます。前半部分では，知覚・認知・動機づけ・感情・発達といった心理学の基礎理論や社会学などの理論と臨床心理学との関連について論じます（柴田）。後半部分では発達・人格理論・心理アセスメント・心理療法についてテキスト上の事例を参考にしながら論じます（北島）。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 授業の進度によって，順番が変更になる可能性があります。 １．　オリエンテーション：心理学の中の臨床心理学（担当：柴田健） ２．　知覚・感覚の心理学：我々のものの見方について（担当：柴田健） ３．　学習・記憶の心理学：行動療法入門（担当：柴田健） ４．　認知・思考の心理学：認知療法入門（担当：柴田健） ５．　感情・動機づけの心理学１：感情心理学の世界（担当：柴田健） ６．　感情・動機づけの心理学２：その臨床的応用について（担当：柴田健） ７．　社会心理学：コミュニケーションとは何か（担当：柴田健） ８．　幼少期の問題とその後の表現形（担当：北島正人） ９．　心理療法－かかわるということ－①（担当：北島正人） １０．心理療法－かかわるということ－②（担当：北島正人） １１．心理援助の基礎①（人格理論）（担当：北島正人） １２．心理援助の基礎②（発達理論）（担当：北島正人） １３．対象理解のためのアセスメント①（発達検査）（担当：北島正人） １４．対象理解のためのアセスメント②（人格検査）（担当：北島正人） １５．教育・生活の中での臨床心理学（担当：北島正人） １６．試験

授業に関連するキーワード			
	臨床心理学	心理療法	心理アセスメント
	発達理論	人格理論	コミュニティ心理学

成績評価の方法	出席30%，講義・討論への積極的参加20%，テスト50%を評価基準とします。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教	『心とかかわる臨床心理第2版：基礎・実験・方法』	川瀬正裕・松本真理子	ナカニシヤ出版	2006
	教	『子どもおとな社会：子どものこころを支える教育臨	髙田知惠子編	北樹出版	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	上記2冊のテキストを用い，補足説明のためにその都度資料を配付します。
自由記述欄	

科目コード	51232006	単位	2	時間数	30
授業科目名	人間関係論Ⅱ－社会の中での私－	開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Human Relations II				
備考	50名程度以内	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部・１～２年生		
内容的に密接に関係する授業科目	人間関係論Ⅰ	履修する際に前提とする授業科目	原則として人間関係論Ⅰの受講者を対象とした科目である		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木久長	医学部	C-115	018-884-6506				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日15:00-15:30	【場所】	C-115

授業の目的	授業の到達目標
集団や社会の中での自分の存在を振り返り、他者との意見交換を通して様々な社会的事象に対する意見を形成することができるようにする。	1．人間関係に関するテーマについて、自分の考えをまとめることができる 2．自分の考えを伝え、相手の考えを受けとめることができるようになる 3．個人と社会の関係についての基礎的理論を理解する

カリキュラム上の位置付け	社会や集団という視点から人間関係を考え、話し合いを通して意見をまとめていくプロセスを体験的に学習する科目である
授業の概要	【授業の概要】 毎回テーマを提示して、それについて話し合い、意見をまとめて発表する
授業の進行予定及び進め方	【授業の進行予定】 1．効果的な自己紹介の仕方 2．ファシリテーションの技術 以下のテーマを取りあげる予定です ・家族と友人の共通点と相違点 ・楽しさ、喜び、嬉しさ、幸せの区別 ・いのちは一番大切なものか ・少子高齢社会をどう生きるか ・異性への好意の効果的な伝え方 ・いじめは無くせるか ・秋田県の課題は何か－秋田を元気にする会社を作ろう ・人はなぜ働くのか ・生きる意味とは何か 【進め方】 毎回の授業は、原則として次のような流れで行われます
授業に関連するキーワード	社会心理学 / ソーシャル・キャピタル / 討論 / 意見交換
成績評価の方法	試験を行います（説得力・伝達力のある意見をまとめることができるか） グループでの活動があるので、特別な理由がない限り欠席は認めない

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特にない参考書等は授業中に紹介する
自由記述欄	

科目コード	51132001	単位	2	時間数	30
授業科目名	文学論－教養読書基礎講義－	開講学期等	後期	時間割	金5・6
授業科目名英字	Lecture on Literature B:Lecture on liberal reading				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	特になし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
成田　　雅樹	教育文化学部	教3-139 ・2531	2531				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火水金16:10～	【場所】	教文3-139（電話：889-2531）

授業の目的	授業の到達目標
（１）　映像化された作品と原作の文章表現との比較によって，文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。 （２）　文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。	（１）　原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。 （２）　原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論ずることができる。 （３）　一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論ずることができる。

カリキュラム上の位置付け	目的主題別としては「学問の方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標２と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。
授業の概要	翻案（映画）と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。
授業の進行予定及び進め方	１(10/3)回…オリエンテーション（本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」） ２(10/10)～４(10/24)回…明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート（映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較） ５(10/31)～６回(11/7)…大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロッコ」「蜃気楼」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・２作品の比較） ７(11/14)～８(11/21)回…大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・２作品の比較） ９(11/28)回…昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較） 10(12/5)～11(12/12)回…昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート（作家の人生と作品との比較・以前の読後感との通時的比較） 12(12/19)～13(1/9)回…現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討，及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つぐみ」を扱う。ミニレポート（映像と原作との比較） 14(1/16)～15(1/23)回…現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討，及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート（重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較） 16(1/30)回…試験（レポート）
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較／観想的態度／ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリ 解釈と物語スキーマ／視点及びシーンとサマリー／芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴ 表層と深層及びメタファーとテーマ
成績評価の方法	授業中の発表や討論などの状況と学習態度，及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数（作家ごとのミニレポート７枚等と試験レポート１枚）が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合：C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合：B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合：A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合：S。配点は概ね、授業中の取組３５点、提出物の内容３５点、試験レポートの内容３０点とする。総合６０点以上を合格（C以上）とする。追試・再試は行わない。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	「それから」「人間失格」「つぐみ」以外の授業中に読むテクスト（原作の文章）及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。　また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。
自由記述欄	※　ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。「それから」「人間失格」「つぐみ」は事前に読んでおくこと。また，各作家のその他の作品を随時読み，授業中の発表に備えることが望ましい。

科目コード	51132002	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本の近代文学	開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	Modern Japanese Literature				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1-4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本文化基礎論Ⅳ	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
山崎義光	教育文化学部日本・アジ	教文3-131	018-889-2610				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日10:30-12:00	【場所】	教文3-131（山崎研究室）

授業の目的	授業の到達目標
日本の近代文学を対象に、「近代」化する日本の社会のなかで、人・生きもの・物といった対象が、どのように描かれてきたかを考えます。「文学」のなかに、時代・社会・思想・倫理・自己意識などの諸要素が、どのような表現方法によって描かれ、価値づけられているか。具体的な作品の精読を通じて考えます。	1．作品の（発表された、描かれた）時代背景を、日本の近代史のなかで位置づけて説明できる。 2．時代・社会的背景などについての知識と作品を関連づけて解釈することができる。 3．『こころ』の特質、読みどころについて自分の観点を設けて説明できる。 4．自分が感じ考えたことを表現することができる。

カリキュラム上の位置付け	主題別科目「人間と文化」の一つで、文学という言葉の「文化」を通じて「人間」がどのように表現されたか、そこには現在と異なり、あるいは通じる、どのような問いかけがあったのかを考える科目です。
授業の概要	高校教科書でもよく知られ、部分的にはよく読まれている小説『こころ』を精読します。 『こころ』が朝日新聞に連載されたのは、大正3年（1914年）、今からほぼ100年前のことです。この小説には、さまざまに当時の社会的な制度・慣習・価値観などが書き込まれています。今、現在読んでいる自分の常識や価値観をあてはめて読む前に、作品に書き込まれた社会背景について知り、作品を精読して考えます。
授業の進行予定及び進め方	第1-3回　漱石の生きた時代 第4-7回　『こころ』「上　先生と私」 第8回　『こころ』「中　両親と私」 第9回　エッセイ・コンテスト１ 第10~13回　『こころ』「下　先生と遺書」 第14回　エッセイ・コンテスト２ 第15回　まとめ （進め方） 『こころ』の全体を（高校教科書所載部分だけでなく）読んでいることを前提とします。 事前学習としてテキストを読み、各回の課題について考えてきたことを小テストします。それをふまえた講義形式で進めます。 そのほか、講義内容を理解するに資する小テストを、不定期で行います。 作品読解と関連する事項に関する最終レポートを必須とします。 自らの感じ考えたことを表現する課題として、2回のエッセイ・コンテストを実施します。

授業に関連するキーワード			
	日本文学	近代	小説
	夏目漱石	『こころ』	歴史
	思想	社会	エッセイ

成績評価の方法	小テスト（50%、目標の１、２）およびレポート（30%、目標の２および３）、エッセイ（20%、目標４）を総合して評価します。 ただし、レポートを提出していない場合には不合格とします。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
参	『漱石のリアル　測量としての文学』	若林幹夫	紀伊國屋書店	2002
参	『海辺の恋と日本人』	瀬崎圭二	青弓社	2013
参	『反転する漱石』	石原千秋	青土社	1997

教科書・参考書等に関する記述欄	「教科書」は、夏目漱石『こころ』所載本とします。出版社、文庫本・単行本の別は問いません。ただし、授業時に必ず持参してください。
自由記述欄	

科目コード	51142004	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語表現の諸相	開講学期等	後期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Various Aspects of Japanese Expression				
備考		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	日本語学概論、日本語文化論	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大橋純一	日本・アジア文化講座	3-１３５	018-889-2614				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日　13:00-14:20	【場所】	研究室（３－１３５）

授業の目的	授業の到達目標
日本語および日本語表現に関する基礎知識を学び、自らの言語生活へのアプローチを通してその効用と課題を自覚する。それらを踏まえた言語活動（読む・聞く・話す・書くの４技能）を具体的に実践し、各技能の力を涵養するすることを目的とする。なお授業では、受講者どうしの議論、自己内省、調査発表等を随時行い、日本語学的な考察への橋渡しという側面も積極的に視野に入れていく。	1）日本語および日本語表現に関する基礎知識を習得し、その概要を説明できる。 2）得られた知見に基づき、事物・事象を適切に表現できる。 3）日本語表現の特質を自らの実践（読む・聞く・話す・書くの４技能）を踏まえて説明できる。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の主題別科目として、日本語および日本語表現に関する知見を深め、技法を習得し、それによる具体的な実践を行うことに力点を置く。また専門の日本文化論、日本語学への導入としての位置づけを持つ。
授業の概要	情報化社会の中にあって、自分自身を的確に表現する力、発信された情報の意味を読み解く力がますます重要さを増している。この授業では、それらの力を確立することを目指し、まずは日本語表現の諸相（実態と技法）を実例にあたって体得することから始める。そのために、日常の言語生活に立ち返って調べ、他者とも議論し、日本語やそれによる表現法に関する知見を深めていく。またそれらの基礎知識を踏まえ、具体的な“表現”の実践を行い、いわゆる言葉の４技能に通底する力を養っていく。
授業の進行予定及び進め方	授業形態としては「講義」の立場をとるが、実際には受講者自身あるいは受講者どうしで考察を深めつつ、以下に掲げる各課題に取り組んでいくことを主体とする。 １．ガイダンス――授業の内容とその進め方 ２～４．言葉の限界と可能性――日常の言語生活を通して ５～７．言葉と社会との関わり――言語の実態調査に即して ８．話し言葉と書き言葉――自己紹介および具体的な事例を通して ９．論述形式――パターンの類型化と各論述パターンの功罪 10. レトリック――実例から学ぶ表現の妙 11. 小論文――「８」～「10」を踏まえての実践 12. 対話のケーススタディ――場面設定に基づいた実践 13. プレゼンテーション――パワーポイントによる発表 14. いい表現とは――表現内容なのか表現技法なのか 15. まとめ

授業に関連するキーワード			
	日本語表現	話し言葉	書き言葉
	論述形式	レトリック	対話
	プレゼンテーション		

成績評価の方法	授業内での課題（小論文・ミニレポート・口頭発表・ディスカッション・プレゼンテーション）への取り組み（60%）、学期末に課すレポート兼筆記試験の内容（40%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。なお欠席５回の時点で評価はDとする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	各回のテーマに即してプリントやパワーポイントを用いる。
自由記述欄	

科目コード	51242005	単位	2	時間数	30時間
授業科目名	教育学Ⅱ－現代社会と子育て支援－	開講学期等	後期	時間割	月3・4
授業科目名英字	Pedagogy ⅡB： Modern Society and Child care support				
備考		授業の形式	講義および演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～４年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
奥山順子	発達教育	教育文化学部5-506	018‐889‐2677	瀬尾知子	発達教育	教育文化学部5-511	018-889-2896

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月9.10限（奥山）木5.6限（瀬尾）	【場所】	5-506（奥山） 5-511（瀬尾）

授業の目的	授業の到達目標
○ 現代社会における家族，特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりやその支援の課題を考える。 ○ 子育て支援におけるこれからの保育・学校教育・社会教育の関係やそれぞれの役割について理解する。	○ 家庭を取り巻く社会状況の変化を理解し，それに応じた子育て家庭への支援のあり方について考察する。 ○ 地域社会・家庭・保育施設とのかかわりを視点として，現代の子育てや保育の課題をとらえて考察する。

カリキュラム上の位置付け	2014度以降入学者のうち保育士資格取得登録者は必修
授業の概要	現代社会における子育てや教育，各種データや資料をもとに考察し，現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。
授業の進行予定及び進め方	【授業進行予定と進め方】 1．ガイダンス・子育てと現代社会　【奥山】 2．家庭の変化と子どもの価値　地域社会の教育機能　家庭と保育施設や学校との関係　【奥山】 3．子どもが育つ環境①　子どもと大人の関係　【奥山】 4．子どもが育つ環境②　育てる者と育つもの　【奥山】 5．家庭生活を取り巻く社会的状況　男女共同参画社会とワークライフバランス　【瀬尾】 6．子育て支援の体制　子育て支援にかかわる法体系と社会資源　【瀬尾】 7．地域子育て家庭への支援　地域子育て支援の意義と地域子育て支援拠点事業　【瀬尾】 8．「子育て支援」の目的・現状と課題　【奥山】 9．地域の実情と子育て事情　多様な課題と可能性　【奥山】 10. 家庭支援の今日的課題　【奥山】 11. 母親と子育て　育児不安と育児ストレス　【瀬尾】 12. 父親と子育て　アロマザリングと子育ての社会化　【瀬尾】 13. 特別な支援を必要とする子ども・家庭への支援①　【瀬尾】 障がいをもつ子どもへの支援の実情 14. 特別な支援を必要とする子ども・家族への支援②　【瀬尾】 障がいを持つ子どもとその家族に対する支援 15. まとめ　【奥山・瀬尾】

授業に関連するキーワード	教育	子育て支援	社会

成績評価の方法	レポート70%　授業中の課題30%

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『保育所保育指針解説書』	厚生労働省	フレーベル館	2008
	参考書	『子育て支援の心理学』	無藤隆・安藤智子	有斐閣	2011
	参考書	『〈育てられるもの〉から〈育てる者〉へ－関係発達	鯨岡俊	NHKブックス	2002

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51222006	単位	1	時間数	15
授業科目名	人権と共生－ボランティア活動論－	開講学期等	後期後半	時間割	水5・6
授業科目名英字	Human Rights:lecture on Volunteer Activities				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟１階事務室内	018-889-3193				

オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
学生がボランティア活動を通じて地域社会の課題に積極的に取り組める基礎を養成する。	ボランティア活動の意義と必要性を理解し，自らもその活動に参加するという行動意欲を惹起する。

カリキュラム上の位置付け	社会の一員として，共同で社会を支えるための基本的考え方，具体的行動喚起を促す科目として重要な位置付けである。
授業の概要	【授業の概要】 県内外のボランティア活動団体の現状と課題、そして期待について，県内のボランティア・NPOの実践者から率直に提案していただく。授業担当者が決まり次第掲示により周知する。 詳細については，決定次第掲示するので，掲示に注意してください。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】

授業に関連するキーワード			
	ボランティア	社会貢献	NGO
	ＮＰＯ	いのち	

成績評価の方法	毎回授業終了後に提出するレポートによる。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特に使用しない。
自由記述欄	

科目コード	51142006	単位	2	時間数	30
授業科目名	多文化コミュニケーション入門Ⅱ－他者の文化を発見	開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Invitation to Multicultural Communication II				
備考	40名以内。人数が多い場合，課題により選考する。受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1・2（3・4）年		
内容的に密接に関係する授業科目	「多文化コミュニケーション入門I」「日本文化入門I／II」「多文化間交流論I／II」「日本教育学入門I／II」	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木良造	国際交流センター	般1-2階 205	018-889-2938				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金 08:50-10:20	【場所】	研究室（般1-2階） 205

授業の目的	授業の到達目標
母語あるいは文化的背景を異にする者の間では違いが目立ち，違いを理解，受容するためには話し合わなければならない。この科目では意見を集約するタイプの話し合いを通じて，違いの理解，受容の過程を体験し，異文化理解の一端となることを目的とする。	(1) 母語あるいは文化的背景を異にする者の間の違いを理解，受容する態度を涵養する。 (2) 他者と協力して課題を進められるようになる。 (3)論理的な話し合いの展開ができるようになる。

カリキュラム上の位置付け	ここでは，母語・文化的背景を異にする者たちが，協力して課題に取り組む。その過程で，異なる意見を持つ人と円滑に意見が交換できるようになること，他者と協力して課題を進めることができるようになる。
授業の概要	学生グループによる話し合い，話し合いの結果の発表，相互コメントを行う。話し合いに積極的に参加し，合意形成に貢献できる態度が望ましい。
授業の進行予定及び進め方	1) オリエンテーション 2) ～ 7) グループでの話し合い 8) 十字モデルとは 9) ～ 13) 十字モデルを利用した話し合い 14) 最終発表および最終レポート提出 15) レポートの相互評価・自己評価
授業に関連するキーワード	多文化 / コミュニケーション / 話し合い 異文化理解 / 十字モデル
成績評価の方法	1) 最終発表 30% 2) 最終レポート 30% 3) 授業への積極的な参加 30% 4) レポートの相互評価・自己評価 10%

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	適宜プリントを配布する。
自由記述欄	受講希望者は一回目の授業に必ず出席すること。

科目コード	51342007	単位	2	時間数	30
授業科目名	自然環境と資源ＩＢ－地球環境と化学元素－	開講学期等	後期	時間割	月1・2
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特にありません。		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで	【場所】	教文3-218

授業の目的	授業の到達目標
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解	1，元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2，生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3，人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。
授業の概要	【授業の概要】 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1，化学元素の定義と単位、記号 2，地球の構造 3，宇宙における元素の生成と存在量 4，地圏での元素の存在量 5．大気圏での元素の存在量 6，水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7，化学物質の毒性と必須性 8，生体における元素存在量と機能 9、微量化学成分の化学分析 10、水質および大気のモニタリング 11、光と物質の相互作用 12、大気の化学組成とその変遷 13、地球環境での炭素の存在量とその循環 14、地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15、同、(2)酸性雨と硫黄化合物 16、同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ

授業に関連するキーワード			
	地球環境	大気圏	海洋
	生体	化学元素	必須元素
	有毒元素		

成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を10回(９０％)，レポート課題1回（１０％）。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。
自由記述欄	

科目コード	51362002	単位	1	時間数	16
授業科目名	自然環境と資源Ⅱ－有機天然資源とその利用－	開講学期等	後期前半	時間割	月9・10
授業科目名英字	Natural Environment and Resources, Part 2: Resources of Organic Chemicals				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1-4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	高校の化学Ⅰと同程度の学力があれば理解できる。		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
清野秀岳	教育文化学部自然環境講	教文3-214	018-889-2589				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日と金曜日、13時30分-15時	【場所】	教育文化学部３号館２１４室

授業の目的	授業の到達目標
産業で用いられている有機資源の種類と特徴を理解し、利用に伴う環境への影響を多角的視野から評価できる力を養う。	1．天然資源の種類と性質、地理的分布について説明できる。 2．化石資源の利用法と、それに伴う環境への影響について理解する。 3．多様な種類の生物有機資源について、特徴と利用価値を理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け	化学、環境、資源を専門とする学生には、有機化学、生物有機化学の入門的な内容である。それらを専門としない学生には、資源利用と地球環境のかかわりについて化学の視点から考察し教養を高める内容である。
授業の概要	現代社会における生活で利用される有機化合物には非常に多様な種類がある。それらの原料は、石油、石炭、天然ガスなどの地下資源と、動植物由来の生物資源（例えば、セルロース、ゴム、油脂など）とに大別される。本授業では、これらの資源が産業規模でどのように使われているのかを学び、それに伴う環境への影響を考察することを目標とする。両者の長所と問題点について、入手や加工、取扱いの利便性のほか、エネルギー消費や廃棄物などを考慮に入れて解説する。
授業の進行予定及び進め方	1．天然資源の種類と性質、地理的分布 2．石油精製と改質：おもにエネルギー利用について 3．石油化学工業：おもに材料としての利用について 4．石炭の利用 5．天然ガスの利用 6．バイオマスのエネルギー利用 7．天然物化学 8．生物資源材料の最前線

授業に関連するキーワード			
	有機工業化学	化石資源	生物資源
	環境	エネルギー	

成績評価の方法	毎回の授業中に小試験を行う。小試験の合計点が60点以上を合格とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『新・有機資源化学』	平野・古川・菅野・真	三共出版	2011
	参考書	『Industrial Organic Chemistry』	Wittcoff, Reuben,	Wiley	2013

教科書・参考書等に関する記述欄	参考書の購入は必要ありません。プリントとプロジェクタを使用して授業を行います。
自由記述欄	

科目コード	51342006	単位	1	時間数	15
授業科目名	環境と社会Ｂ－地域環境とインフラストラクチャー－	開講学期等	後期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Environment and Society B:Regional Environment and Infrastructure				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
日野　智	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2359	浜岡 秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F教員室	018-889-2974
徳重 英信	工学資源学部	工資1-412	018-889-2367	松冨 英夫	工学資源学部	工資1-416	018-889-2363
荻野 俊寛	工学資源学部	工資1-419	018-889-2364	渡邉一也	工学資源学部	工資1-420	018-889-2884

オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義終了時にアポイントを取って下	【場所】	各教員室

授業の目的	授業の到達目標
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例や自然災害事例に ついて履修する。	1.社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2.地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 4.社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境・災害を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。

カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。
授業の概要	社会資本の整備理念と手法について学び，具体的な整備例を履修する．また，安全・安心な社会環境とするため，諸種の自然災害の基本についても学ぶ.
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境

授業に関連するキーワード			
	社会基盤	社会資本整備の理念	都市と交通
	建設構造物	建設材料	地盤災害
	水環境・災害		

成績評価の方法	レポート（80%）、出席状況等（20%）を考慮して総合的に評価する。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51512004	単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンスⅡB	開講学期等	後期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Life Science IIIA				
備考		授業の形式	講義および演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館312号室	018-889-2590				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時	【場所】	教育文化4号館312号室

授業の目的	授業の到達目標
遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ，犯罪捜査にはDNAが欠かせません。最近では，遺伝子検査が流行し，病気の可能性から才能まで検査できるようになりました。遺伝は理解できれば大変面白い問題ですが，知らないとすべてがブラックボックスのように感じてしまいます。この講義では，このような遺伝現象を理解するための基礎として，メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。	1）遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2）染色体の挙動を理解する。 3）メンデル遺伝についての簡単な入試問題を解くことができる。

カリキュラム上の位置付け	教養教育
授業の概要	メンデル遺伝の問題を解くことで，遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため，すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので，１回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。
授業の進行予定及び進め方	講義は以下の６項目にそって進めます。 この理解を深めるため，①-③の演習問題を用意しています。 1）身の回りの遺伝現象 2）形質とは 3）遺伝子とタンパク質 4）メンデル遺伝の法則 5）染色体の挙動 6）性染色体と遺伝子 演習：①一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 ②二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 ③伴性遺伝を理解するいろいろな問題

授業に関連するキーワード			
	メンデル遺伝	染色体	タンパク質
	減数分裂	伴性遺伝	DNA
	形質		

成績評価の方法	課題，試験により判定する。３回以上休んだ場合は再履修となる。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	高校生物のメンデル遺伝を習っていない人，習ったけれどほとんど理解できなかった人を対象にしています。

科目コード	51712003	単位	2	時間数	30
授業科目名	コンピュータの科学Ｂ－コンピュータ科学の基礎－	開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Computer Science B: Fundamentals on Computer Science				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	コンピュータリテラシーにかかわる基礎科目（情報処理の技法，情報処理入門，情報処理）を履修していることが望ましい。		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐々木重雄	教育文化学部	教文４－４１３	018-889-2763				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水　１５：００～１７：００	【場所】	教文４－４１３

授業の目的	授業の到達目標
コンピュータ内部におけるデータ表現である二進数、および、その処理の仕組みを学ぶ。特にデジタル処理の基礎としてブール代数および論理回路を学ぶ。	・情報のデジタル化について説明できる。 ・データ表現とその処理について説明できる。 ・論理演算（ブール代数の演算）ができる。 ・デジタル回路（組合せ回路および順序回路）の記号を理解し，簡単な回路設計ができる。

カリキュラム上の位置付け	コンピュータの利用に関する授業（情報処理の技法，情報処理入門，情報処理）と対になる形で，情報の表現およびコンピュータの動作原理を学習する
授業の概要	コンピュータが扱うデータであるデジタル情報について，その性質，および，その処理方法の原理を学習する。最終的に，デジタル情報を扱うハードウェアとしての論理回路の設計方法までを学習する。主に取り上げる内容は，(1)アナログ情報とデジタル情報の違い，(2)２進数の計算，(3)数値以外のデジタル情報，(4)ブール代数，(5)論理回路である。
授業の進行予定及び進め方	授業進行は以下のとおり 1．ガイダンスと基礎知識（1 回） 2．2進数とその他の基数表現（2進数，8進数，10進数，16進数） 3．テキスト・データと文字コード 4．画像，音声のデジタル表現 5．補数（コンピュータ内部の減算） 6．負の数の表現 7．ブール代数（AND，OR，NOT およびその演算規則） 8．ブール代数（NAND，NOR，XOR およびド・モルガン律） 9．ブール代数（ハミング距離とグレイコード） 10．ブール代数（カルノー図のよる簡単化 1） 11．ブール代数（カルノー図のよる簡単化 2） 12．半加算回路 13．全加算回路 14．順序回路 1 15．順序回路 2

授業に関連するキーワード			
	デジタル	ブール代数	デジタル回路
	データ表現	２の補数表現	カルノー図
	組合せ回路	順序回路	フリップフロップ

成績評価の方法	成績評価は３回の試験（所要時間は，各々およそ３０分）を合計した点数で行う。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『情報の表現とコンピュータの仕組み』	青木征男	ムイスリ出版	2009
	参考書	『コンピュータシステム入門』	都倉信樹	岩波書店	2002
	参考書	『コンピュータの構成と設計・上』	パターソン，ヘネシー	日経BP	2011
	参考書	『コンピュータの構成と設計・下』	パターソン，ヘネシー	日経BP	2011
	参考書	『ディジタル回路のシステム設計』	磯田修一	CQ出版	1984

教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は，図書館にもあります。
自由記述欄	

科目コード	51322002	単位	2	時間数	30
授業科目名	星の世界	開講学期等	後期	時間割	水5・6
授業科目名英字	The world of stars -An introduction to astronomy using the Internet telescope-				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部1～4年生		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
上田晴彦	教育文化学部	教４－４１２	２７６５				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜７・８	【場所】	教４

授業の目的	授業の到達目標
本授業の究極の目的は「自分たちが住んでいる世界がどのようなものなのか」をきちんと理解することである。天文学の発展は、望遠鏡をはじめとする観測機器の開発・利用によって支えられてきた。本授業においてもインターネット望遠鏡を利用した観測方法を知り、現代天文学の実証的な世界観を習得することを目指す。	以下の２点を授業の到達目標とする。 １）リベラルアーツ教育の一環としての天文学の位置づけを理解し、太陽系・恒星・銀河・宇宙という各階層構造に対する基本的知識を身につける。 ２）天文普及活動についても理解し、現代社会を構成する市民・国民としてふさわしい活動ができる基礎知識の習得をおこなう。

カリキュラム上の位置付け	
授業の概要	本授業は天文学の入門的講義であるため、天文学全般にわたるトピックスを取り扱う。座学を基本とした授業ではあるが、天文台の見学や望遠鏡操作などの体験を伴う内容も若干は取り入れる予定である。
授業の進行予定及び進め方	第１回　ガイダンス 第２回　現代天文学とは 第３回　インターネット望遠鏡とは 第４回　天体としての地球について 第５回　地球の衛星としての月について 第６回　太陽について 第７回　天文台見学と望遠鏡操作体験 第８回　太陽系について（惑星と彗星） 第９回　ガリレオ衛星とケプラーの法則 第１０回　恒星とその進化（その１） 第１１回　恒星とその進化（その２） 第１２回　天体観察の基礎 第１３回　銀河と宇宙について 第１４回　天文教育と広報普及活動 第１５回　まとめ

授業に関連するキーワード			
	天文学	インターネット望遠鏡	天文教育

成績評価の方法	以下の２点の総合点にて評価をおこなう。 ・レポート及びイベント参加（20点） ・試験（80点）

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51742002	単位	2	時間数	30
授業科目名	自然環境と住まい	開講学期等	後期	時間割	金5・6
授業科目名英字	Building Environmental Science				
備考	受講定員40名以内　（実験・見学などの内容を含むため）	授業の形式	講義及び演習・実	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～2年		
内容的に密接に関係する授業科目	教育文化学部の学生は、西川担当の専門科目	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西川　竜二	教育・地域文化学科	教1-302	018-889-2691				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜14：30～18：00	【場所】	担当教員の教員室（教1-302）

授業の目的	授業の到達目標
「人にやさしい住環境を、地域や地球にやさしい方法でつくる」ことを科学的に考える。住環境は、主に暖かさ・涼しさを対象とする。自分の身近な住まいから環境問題の解決を考え実践していく見方・考え方を養う。	1）「人にやさしい住環境」、それを「地域や地球にやさしい方法でつくる」について説明できる。例えば、○人に健康・快適な住環境の条件とは？　○今日の住宅の冷暖房照明技術等の発展が健康にもたらした恩恵。一方、現在の人工的環境での生活が健康に与える悪影響。目指すべき住環境とはどのようなものか？　○住生活様式とエネルギー消費・環境負荷の関係　○地域の伝統民家や現代の環境共生建築と呼ばれる建物に備わる、太陽の光・熱など自然のポテンシャルを利用して住環境を調整する方法　○住宅断熱の個人・社会的な意義　○秋田や東北地方の住宅熱環境の特徴、特に高齢社会における健康課題。 2）上記１）を踏まえ、自分の身近な住環境に関心を持ち、その現状を評価し、具体的な改善方法を考え・実践できる。

カリキュラム上の位置付け	秋田大学では基本的目標の１つに『「環境」と「共生」を課題とした独創的な研究活動を行う』ことを掲げています。本授業では、誰にとっても身近な住生活における「環境」と「共生」に関する問題について、科学的な見方・考え方を学びます。これにより、環境共生に貢献する研究や活動を行える人材に育つための素地を養います。また、目的・主題別としては、「学問の進展」を重視。
授業の概要	【授業の概要】 授業は、プリント・スライドによる講義、関連の演習・実験等で進行。序盤は、人に快適な環境とは何かについて、人の快適性の生理心理、現代の住環境と健康課題、現代の住生活と環境負荷、地域の伝統的な住まい、を通して見方・考え方を養います。中盤に、学生参加型の住居模型実験で環境共生住宅の工夫とそれがもたらす快適環境を確かめ、その工夫の原理や実践方法を後半の授業で学びます。体験と結びついた生活実践につながる知識の習得をめざして、授業中の実験・演習や自宅の住環境の測定調査の課題、実験結果のグループ考察・発表等を取り入れて体験・参加的に学びます。事前の専門的な知識は不要（文系OK）です。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】内容・順番は以下を予定。 【01 ガイダンス】　シラバスの説明／住環境学とは／授業全体の概要と問題提起　※受講定員40名超の場合は受講希望の再確認・調整（抽選等）を行う。 【02～03 建築の形態・機能】　植物の地域性・多様性（植生気候図）／伝統建築の地域性・多様性（民家気候図）／伝統建築文化と現代建築文明（パッシブ型技術とアクティブ型技術）／照明暖冷房技術の発展と近現代建築の形態の変遷 【04　秋田の伝統民家の見学】　旧金子家住宅の見学（秋田市大町；手形から徒歩・自転車で移動） 【05　秋田の伝統民家の考察】　見聞したことの発表・解説／伝統的な住宅・住まい方の現代への適応可能性 【06～07 冬暖かく夏涼しい住環境づくり（学生参加型の住居模型実験／VTR視聴）】　少人数のグループで実施。良好な住環境を形成する建築的工夫（素材や形態の知恵・技術）の効果を住居模型を用いて実験。受講生自ら手と頭を動かして体験的に納得する。／実験の順番待ちの学生は、伝統民家の夏涼しい家づくりの技術に関するVTR視聴。 【08～09 模型実験の考察】　実験結果の理論考察による理解と実践例。受講生のグループ討論と発表に対する教員の解説で進める。 【10 冬季の住宅熱環境の現状と高齢社会の課題】　冬季の住宅内温度差”ヒートショック”の危険／高齢者の温熱生理・心理の特徴／東北の住宅における冬季の熱環境の実態と健康課題 【冬季休業中の課題】　「冬季における自宅の熱環境調査」（配付の液晶温度計により温度測定し、住宅熱環境の健康・快適性を自己診断） 【11～15 住まいの断熱・蓄熱】　断熱の価値／断熱住宅の建て方（外断熱と内断熱）／パッシブソーラーハウス／断熱性能を活かした夏の住まい／住宅の断熱・蓄熱構造による室温変化の模型実験 【16　期末テスト、または期末レポート課題】
授業に関連するキーワード	地域の気候と建築環境　／　住環境と健康・快適　／　住生活と省エネ・環境負荷 地域・秋田の伝統住居　／　環境共生建築の技術（建物・設備）　／　環境共生型の住まい方 冬季の住宅暖房環境の現状と課題
成績評価の方法	ア)授業中の課題（要約・意見感想・演習・発表など、一部宿題の場合もあり）（30点、到達目標1）、イ)伝統民家の見学の小レポート(10点、到達目標1・2）、ウ)住居模型実験の小レポート(10点、到達目標1）、エ)冬季休業中の課題レポート「冬季における自宅の熱環境調査」（20点、到達目標2）、オ）期末テストまたはレポート（20点、到達目標1・2）。 成績は100点満点に換算し、S：90～100、A：80～89、B：70～79、C：60～70、D：60未満とし、Dを不合格とする。 出席2/3以上、かつ上記イ)ウ)エ)オ）の全ての提出・受験を成績評価の必要条件とする。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考	『住まいの中の自然』	小玉祐一郎		
	参考	『エコハウジングの勧め』	小玉祐一郎		
	参考	『シリーズ「土曜建築学校」1～3巻』	建築資料研究所		
	参考	『「百の知恵叢書」の住居関係の巻02,08,12,17』		農文協	
	参考	『自分のためのエコロジー』	甲斐徹郎	筑摩書房	

教科書・参考書等に関する記述欄	・教科書は使用しない。配付プリントとスライドですすめる。 ・参考書は、大学図書館に蔵書のものを例示。
自由記述欄	本授業は座学以外の実験や見学など、学生参加型の内容を取り入れています。また、冬休みに自宅の熱環境調査の宿題が出ます。これらが良かったという受講生も居ますが、課題等が多かったという受講生も居ます。住環境に興味があり、積極的に参加できる人が受講して下さい。

科目コード	51562002	単位	1	時間数	15
授業科目名	医学と健康ＩＢ－健康と疾患の基礎知識－	開講学期等	後期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Medical Science and Health IB:Health and Disease				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
後藤明輝	医学部		6062	美作宗太郎	医学部		6092
南條　博	医学部		6182	大森　泰文	医学部		6060

オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜７．８時限	【場所】	医学部基礎棟2階器官病態学講座研究室

授業の目的	授業の到達目標
健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ.	肉眼、顕微鏡での人体の観察を通じ（目で見て）、人体の正常、異常（病気）、そして死について理解する。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6)本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも充分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する.
授業の概要	【授業の概要】 病理学、法医学に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。 いずれの学問領域も肉眼的観察、顕微鏡を用いた観察など”目で見て理解する”ことが基本となる。これらの知識は分子レベルでの理解と組み合わさることにより、健康と疾患に関するより深い理解へと受講者を導くであろう。
授業の進行予定及び進め方	10月７日：病気を目で見る（病理学入門）担当：後藤明輝 10月１４日:呼吸器疾患を目で見る　担当：後藤明輝 10月２１日:身体の構造と機能　担当：美作宗太郎 10月２８日:身近な法医学　担当：美作宗太郎 １１月４日:腫瘍・癌とは？　担当：大森泰文 11月１１日:外科病理学入門（病理学と医療）担当：南條　博 11月１８日：さまざまな疾患の病理学　担当：南條　博 11月２５日：消化器疾患を目で見る　担当：大森泰文

授業に関連するキーワード			
	病理学	法医学	腫瘍
	健康		

成績評価の方法	出席状況（2/3以上）とレポート（提出必須）による評価.

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『はじめの一歩のイラスト病理学』	深山正久　他	羊土社	2012

教科書・参考書等に関する記述欄	講義内容をさらに学ぶためには、ここに挙げた参考書が役立つ。
自由記述欄	

科目コード	51812002	単位	2	時間数	30
授業科目名	医学と健康ⅢＢ－加齢と保健医療－	開講学期等	後期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Medical Science and Health IIIB:aging and health care				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
鈴木　圭子	医学系研究科保健学専攻	D303	018-884-6511	中村　順子	医学系研究科保健学専攻	B209	018-884-6516
百田　芳春	医学系研究科保健学専攻	C104	018-884-6509	山口　典子	医学系研究科保健学専攻	C113	018-884-6522
安藤　秀明	医学系研究科保健学専攻	C112	018-884-6524	永田　美奈加	医学系研究科保健学専攻	B204	018-884-6546
長岡　真希子	医学系研究科保健学専攻	C210	018-884-6523	藤田　智恵	医学系研究科保健学専攻	B102-1	018-884-6544

オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜担当教官と連絡	【場所】	適宜担当教官と連絡

授業の目的	授業の到達目標
1）加齢に伴う身体的精神的変化を理解し、高齢社会で暮らす地域住民としての基礎的知識・態度を習得する。 2）高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを、多様な観点から学ぶ。	1）加齢に応じた健康保持法，医療への関わり，医療側の対応が理解できる。 2）加齢と保健医療の現状を理解し，高齢者へのいたわりの心をもてる。 3）加齢と保健医療について，具体的に問題提起し考察することができる。

カリキュラム上の位置付け

加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。

授業の概要

【授業の概要】
加齢に伴う身体的精神的変化を理解し，高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探求する。

授業の進行予定及び進め方

【進行予定と進め方】

担当		講義の内容
1.永田美奈加	：地域・老年看護学講座 10/2	高齢者のケア(1)
2.永田美奈加	：地域・老年看護学講座 10/9	高齢者のケア(2)
3.安藤 秀明	：臨床看護学講座 10/16	加齢と疾病、治療(1)
4.安藤 秀明	：臨床看護学講座 10/23	加齢と疾病、治療（2)
5.長岡真希子	：地域・老年看護学講座 10/30	高齢者と家族
6.藤田 智恵	：地域・老年看護学講座 11/6	高齢者と地域でのケア
7.中村 順子	：地域・老年看護学講座 11/13	高齢者の在宅ケア(1)
8.中村 順子	：臨床看護学講座 11/20	高齢者の在宅ケア(2)
9.百田 芳春	：基礎看護学講座 11/27	加齢と身体機能変化(1)
10.百田 芳春	：基礎看護学講座 12/4	加齢と身体機能変化(2)
11.百田 芳春	：基礎看護学講座 12/11	加齢と身体機能変化(3)
12.山口 典子	：基礎看護学講座 12/18	加齢と栄養(1)
13.山口 典子	：基礎看護学講座 12/25	加齢と栄養(2)
14.山口 典子	：基礎看護学講座 1/22	加齢と栄養(3)
15.鈴木 圭子	：地域・老年看護学講座 1/29	高齢者の心のケア
16.テスト	2/5	記述式テスト

授業に関連するキーワード

加齢	保健医療	健康
ケア	栄養	家族
身体機能変化	地域	在宅

成績評価の方法

講義出席状況(2/3以上）を満たした上で，学習意欲・態度（10%），テスト（90%）

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄

特に指定しない。

自由記述欄

科目コード	51812003	単位	2	時間数	30
授業科目名	がん医療と緩和ケア	開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	cure for cancer and palliative care				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学　１・２年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
伊藤　登茂子	保健学専攻	C-209	018-884-6519	安藤秀明	保健学専攻	C-112	018-884-6471
兒玉　英也	保健学専攻	C-114	018-884-6513	山口　典子	保健学専攻	C-113	018-884-6522
煙山　晶子	保健学専攻	D-305	018-884-6548	渡邉　知子	保健学専攻	C-207	018-884-6539
高階　淳子	保健学専攻	B-103	018-884-6551				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜　16：00－16：15	【場所】	講義室または各教員研究室

授業の目的	授業の到達目標
「がん」という病い、そして生活者たる人々にあっての「がん」、および治療的行為（cure）と援助的行為（care）の理解を通して、「がん」との向き合い方を学ぶ。	1）日本における「がん」の実態と課題について理解できる。 2）「がん」とともに生きる人々の全人的理解について述べることができる。 3）「がん」の予防と療養における栄養について述べることができる。 4）「がん」と遺伝子とのかかわりについて理解できる。 5）発生頻度の高い「がん」の特徴と治療、およびがん医療の未来について理解を深めることができる。 6）「がん」とともにより良く生活するための症状マネジメントについて、理解することができる。 7）身体的・心理的・社会的苦痛とスピリチュアルペインについて述べることができる。

カリキュラム上の位置付け	大学生として社会の期待に応えられる資質の涵養を目指し、教養基礎教育科目として位置づける。
授業の概要	【授業の概要】 講義を主としながら、がんの成り立ち、治療、ケアについて現状の理解を深め、がんとともにいかにより良く生きるか、どのように向き合うかを共に考える。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1・2回（10/ 2、　9）がんの動向、がん看護総論（伊藤） 3・4回（10/16、23）がんの予防と療養における栄養（渡邉） 5回　（10/30）　がん病態総論（安藤） 6回　（11/6）　５大がん各論(安藤） 7回　（11/13）　がんと遺伝子（山口） 8回　（11/20）　がん対策（安藤） 9回　（11/27）　がんと概日リズム（兒玉） 10回（12/ 4）　がん患者の放射線治療に伴う症状マネジメント（渡邉） 11回（12/11）　患者の化学療法に伴う症状マネジメント （全身倦怠感、脱毛、嘔気、味覚障害など）（高階） 12回（12/18）　がんそのものおよび手術療法に伴う症状マネジメント （悪液質、疼痛、リンパ浮腫）（高階） 13回（12/25）　がん患者・家族の苦痛や苦悩と緩和ケア（煙山） 14回（2015年1/22）　同　上　（煙山） 15回（1/29）　同　上　（煙山） 16回（2/5）試験

授業に関連するキーワード			
	がんの動向	がん看護	生活習慣
	がん医療	全人的理解	緩和ケア
	症状マネジメント		

成績評価の方法	筆記試験（80%）、学習態度（20%）とし、総合60%以上を合格とする。 欠席6回の時点で評価は「D」とする。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
参考書	『19歳の君へ－人が生き、死ぬということ』	日野原重明編著	春秋社	2009
参考書	『詩集　病者・花』	小川鼎三，中井準之助	現代社	1990
参考書	『トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント』	Twycross,R.武田文和	医学書院	2003
参考書	『ケアの思想と対人援助』	村田久行	川島書店	2010

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51812005	単位	2	時間数	30
授業科目名	大学生と健康Ｂ－上手に生きる為の基礎知識－	開講学期等	後期	時間割	木7・8
授業科目名英字	Students and Health B:B primer of mental and physical health for college students				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287		小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		佐藤 朗	非常勤講師	2286	
草薙宏明	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
筒井　幸	非常勤講師	2286					

オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日　９：００－１７：００	【場所】	保健管理センター

授業の目的	授業の到達目標
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年にとっては，社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌，心臓病，脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心とからだの健康状況を認識し，将来の生活の支えとなることを目的として行う。	健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や，感染症，不眠症などの予防法を学び，心理面では性格，人間関係，神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。

カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。
授業の概要	【授業の概要】 １)人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず，社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと，将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法，エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり，日常生活の中での対処の仕方を学んでおくことが必要である。 ２）また，高度情報化社会への移行に伴い，経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて，人生を健康に生き抜くためには，ます
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ１ヵ月に１本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは１本ずつ評価して、テスト成績に加点する。

授業に関連するキーワード			
	心と体の健康保健	成人病・うつ病・認知症	睡眠障害と心身の調子
	生活構造と人生・宗教	飲酒・喫煙の害と発癌	エイズ・妊娠・出産
	救急措置・海外渡航		

成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答），及びレポートを統合して行う。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『新版　学生と健康』		南江堂	2011

教科書・参考書等に関する記述欄	
自由記述欄	

科目コード	51602001	単位	2	時間数	30時間
授業科目名	外科手術と手術機器の進化	開講学期等	後期	時間割	水9・10
授業科目名英字	Evolution of the surgical devices and its procedure				
備考	受講人数多数の場合は、制限する可能性あります。	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部　1，2，3，4年生		
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
南谷佳弘	呼吸器外科			安藤秀明	戦略的外科系医師養成プ	6471	884-6471
齊藤　元	呼吸器外科	6128	884-6128	伊藤亜樹	乳腺外科		
他　非常勤講師							

オフィスアワー	【曜日及び時間】	II期　水曜日９・10時限	【場所】	医学部　基礎講義棟第一講義室

授業の目的	授業の到達目標
外科手術の進歩が、麻酔・消毒法・手術機器の開発によって飛躍的に進化し、変貌していることを理解する。 外科サブスペシャリティの特徴を理解する。 手術機器の構造を理解し、操作を体験する。	1．外科治療の歴史を理解し、進歩の要因を説明することができる。 2．安全な手術のために必要な麻酔の重要性を説明できる。 3．手術の安全性・確実性・低侵襲性を実現するために、手術機器が開発されてきた経緯を説明することができる。 4．外科サブスペシャリティの特徴を説明できる。

カリキュラム上の位置付け	外科系手術手技、その開発に関わる機器の進歩に関心を持つ学生・一般に向けた基礎科目である。医学部以外の受講も歓迎する。
授業の概要	【授業の概要】 手術機器はその原理を講義で理解し、実際に操作体験を行う。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 1．外科の歴史 2．創傷治癒 3．手術機器の進化 　1）縫合糸 　2）エネルギーデバイス（電気メス、超音波凝固切開装置、熱凝固装置、超音波破砕器など） 　3）鉗子 　4）ディスポーザブル物品 　5）光学機器 4．内視鏡手術 5．鏡視下手術（腹腔鏡下手術、胸腔鏡下手術） 6．ロボット支援手術 7．医療機器管理 8．外科サブスペシャリティ：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科

授業に関連するキーワード			
	外科医学史	光学機器	手術機器
	消毒	創傷治癒	鏡視下手術
	エネルギーデバイス		

成績評価の方法	出席・講義毎のレポート提出

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	資料を随時配布する。
自由記述欄	毎回講義に関するレポート提出を行ってもらいます。レポートは講義終了後1週間以内に提出してもらい、それ以降は受け付けません。毎回のレポート評価点数と提出数で成績評価します。

科目コード	51222009	単位	2	時間数	30
授業科目名	社会と地域Ｂ－都市社会学の基礎－	開講学期等	後期	時間割	火3・4
授業科目名英字	Society and Community B: Introduction to the Urban Sociology				
備考	授業内容に関心のない人（単位取得のみが目的の人）は受講しないでください。	授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	（「教養基礎教育」では特になし）	履修する際に前提とする授業科目	（特になし）		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉　浩	教育文化学部	教育文化学部3号館322	018-889-2649			izumi@ed.akita-u.ac.jp	

オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時	【場所】	教育文化学部3号館322

授業の目的	授業の到達目標
現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらえるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。	1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2. 社会学の基本的な考え方を理解する。 3. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。

カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含みます。
授業の概要	【授業の概要】 授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。 第1講　授業についての説明 第2講　現代社会と社会学 第3講　啓蒙主義、近代科学と社会学 第4講　国民国家の形成と社会科学 第5講　産業革命と都市化 第6講　消費社会と都市 第7講　都市衛生と近代都市、都市と交通 第8講　国際化、グローバル化と都市 第9講　都市とモダニズムとポストモダニズム 第10講　都市とユニバーサルデザイン 第11講　都市社会学の主要な理論の潮流 第12講　ジンメルの都市論 第13講　シカゴ学派の都市社会学 第14講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学1 第15講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学2

授業に関連するキーワード			
	社会学	都市	社会理論
	空間論的転回	国家	グローバル化
	地域	消費社会	

成績評価の方法	授業に関連する内容についての小テストとレポートで成績を評価します。小テスト（40点）：授業内容について理解しているかの確認。レポート（60点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。 小テストおよびレポートの課題は授業内でのみ説明を行い、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。 レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、ネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートはDにします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。小テストを受けず、レポートだけ提出した場合は評価をDとします。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参	『都市空間の地理学』	加藤政洋ほか	ミネルヴァ書房	2006
	参	『鉄道旅行の歴史』	シヴェルブシュ	法政大学出版局	2011新装版
	参	『想像の共同体』	アンダーソン	書房工房早山	2007
	参	『監獄の誕生』	フーコー	新潮社	1977
	参	『地図の想像力』	若林幹夫	河出書房新社	2009

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しません。参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。参考書をあらかじめ購入する必要はありません。
自由記述欄	講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。レポートは論文形式で、長めのものを書いてもらいます。

科目コード	51742003	単位	2	時間数	30
授業科目名	地域と食文化	開講学期等	後期	時間割	金7・8
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita Ⅰ : Dietary Habits in Akita				
備考		授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
長沼誠子	教育文化学部	教育文化学部1号館203室	018-889-2530				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日9・10時限	【場所】	教育文化学部1号館203号室

授業の目的	授業の到達目標
秋田大学に学ぶ学生として、秋田の食の特徴を知るとともに、地域における食文化の今日的役割と課題について考える。	1）食文化研究の対象・方法・目的を理解し、地域における食文化の今日的役割と課題について、考察することができる。 2）食の地域性とその要因について、事例（秋田の食、出身地の食）をあげて説明できる。 3）各地域の食文化に関する情報を収集してグループ討論を行い、その結果を報告できる。 4）秋田の食市場の観察あるいは資料・試料収集を行い、その結果を報告できる。

カリキュラム上の位置付け	主題別科目【地域社会】の授業科目として、私たちの身近な食生活について「地域と食文化」の視点から考える。
授業の概要	食文化研究では、食料の生産、流通、調理・加工、食卓構成、食事などの流れを含む人々の生活様式が研究の対象となる。これらが、地域や時代、集団によって共有され、特有の文化を形成している状況及びその要因を研究することにより、今後の食生活への示唆を得ることができる。 　本授業では、日本の食文化の形成と変化について概説した後、研究事例として秋田の食文化（米食・野菜食・魚食・発酵食文化等）を講述し、情報収集及び市場探訪・試料収集等を通して、地域における食文化の今日的役割と課題について考察する契機とする。
授業の進行予定及び進め方	第1回　　ガイダンス：地域とは　食文化をめぐるトピックス 第2回　　食文化の領域：食文化の定義、食文化研究の領域と対象・方法 第3回　　日本の食文化の形成と変化 第4回　　日本(地域）の食文化の現状と課題 第5回　　秋田の伝統食にみる食文化 第6回　　秋田の日常食・行事食にみる食文化 第7回　　秋田の米食文化 第8回　　秋田の野菜食文化・魚食文化 第9回　　秋田の発酵食文化・調味文化 第10回　秋田の食文化トピックス 第11回～第13回　秋田の食文化探訪（グループ活動：学外活動を含む） 第14回　活動報告会 第15回　総括 ＊授業の内容に応じて、分析・調査・評価等を個別あるいはグループ別に実施し、毎時、課題用紙等を提出する。 ＊情報の収集などを授業時間外の課題にする場合がある。

授業に関連するキーワード			
	食生活	食文化	
	地域	秋田	

成績評価の方法	毎時間の課題用紙の提出および内容（60%）…到達目標1)2)3)4) グループ活動報告書および報告会（40%）…到達目標3)4)

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	参考書	『日本の食文化　その伝承と食の教育』	江原絢子・石川尚子	アイ・ケー・コーポ	2009
	参考書	『あきた郷味風土記』	秋田県農山漁村生活研	カッパン・プラン	2005

教科書・参考書等に関する記述欄	資料を配布する。その他の参考書については、授業テーマに応じて適宜紹介する。
自由記述欄	

科目コード	51252008	単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田の自然と文化Ｂ－秋田の自然・資源・社会・文	開講学期等	後期後半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita IVB:Nature				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
今井　亮	国際資源学部	国際資源学部G309	889-2371	石山 大三	国際資源学部	理工学研究セ218	889-2447
内田　隆	国際資源学部	国際資源学部B304	889-2652	井上 正鉄	人間環境	教文4-412	889-2588
石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616	小泉 幸央	医学部分子機能学・代謝	医	884-6075
小泉 重仁	医学部内科学第1講座	医	884-6104				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜，16:00-17:00	【場所】	工資G309・889-2370

授業の目的	授業の到達目標
秋田大学で学ぶ大学生として，秋田の自然社会，文化等の背景と環境を知り，秋田の特色を学び，専門教育との位置づけと係わり，地域と連携について考えることを目的とする．	1）限りある地下資源の基礎的知識を学習し，世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し，資源の生成機構を理解できる． 2）世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し，人間との共存の道を探ることができる． 3）秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる． 4）遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解することができる． 5）胃癌について正しい知識を持ち、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解することができる．

カリキュラム上の位置付け	人間生活に深く関連する事柄に中で，秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ，3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は今井亮）．
授業の概要	1）世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源，資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学． 2）エネルギー資源の賦存状況，秋田県に分布する石油・ 天然ガス資源について紹介し，資源問題を考える． 3）世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系，人間との共存についての講義． 4）秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする． 5）遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解するための講義． 6）胃癌について、その予防、早期発見早期治療の必要性を理解するための講義．
授業の進行予定及び進め方	第1 回(今井亮）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている．県周辺の地下資源を概説し，秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動，鉱床探査技術について紹介し，資源問題を考える． 第2 回（石山・今井）：地学や地質の自然物を対象とする学習は，実際に野外における観察や実物に触れることが大切である．資源に関する講義の理解度をより高めるために，本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）．　＜鉱業博物館玄関に集合＞ 第3 回（内田）：限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し，その基礎的知識を学習する．秋田県に分布する石油・ 天然ガス資源について紹介し，資源問題を考える． 第4回（井上）：世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し，白神山地の保護・管理の在り方を探る． 第5回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園及び世界自然遺産地域に指定された白神山地があり，両地共にブナ林に覆われ，そこには国指定天然記念物であるイヌワシ，クマゲラを始め貴重な鳥獣が生息している．秋田が誇る生態系の構成貝である貴重な鳥獣の生態を紹介，人間との共存の道を探る． 第6回（石沢）：秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする． 第7回（小泉幸央）：秋田県出身の応用微生物学者「遠藤 章」による高脂血症治療薬「スタチン」の発見を通して、遺伝子資源としての微生物の重要性とその創薬への応用を理解する． 第8回（小泉重仁）：秋田県の胃癌死亡率は、十数年日本でほぼワーストワンの座に君臨している．講義を通して、一般的な知識を学ぶ他、病気を身近なもの、そして予防の重要性について考える．

授業に関連するキーワード			
	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地
	秋田の自然	秋田の地域社会	微生物と創薬
	癌	鉱業博物館	

成績評価の方法	授業内容に関するレポート（50%），簡単な小テスト（50%）で評価する．

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	特に使用しない
自由記述欄	

科目コード	51941002	単位	2	時間数	30
授業科目名	日本語リテラシーⅡ－ 表現力－	開講学期等	後期	時間割	金3・4
授業科目名英字	Japanese Literacy II				
備考		授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	1年次以上		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷　秋生	教育推進総合センター	学生支援棟２階	２２５２	栗城　宏	非常勤講師		
畠山　民栄	非常勤講師			渡辺　哲	非常勤講師		

オフィスアワー	【曜日及び時間】	銭谷：水曜７・８	【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
1)演劇的手法を使って演習を行い，現代人に必要な会話によるコミュニケーション能力を高める。 2)「相手を認める」ことがコミュニケーションの第一歩ということを受け止める。	1)相手の話を受け止め，自分の考え・意志を相手にしっかりと伝える事ができるようになる。 2)急に人前に出てのスピーチに際して、自分の思いを伝えることができるようになる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要

【授業の概要】
前半は、短い戯曲を用いて演劇の稽古を行う。その際に留意することは，登場人物の心理の変化を台詞から読み取り，自分の心理の変化として相手に投げかけること。また，相手の台詞からもらう言葉によって再び心理の変化が起き，次の言葉を生み出す。この連続する作用によってドラマを浮き立たせていく。
後半は、スピーチの技法を学びながら、「言葉が届く」とはどういうことかを考える。

授業の進行予定及び進め方

【進行予定と進め方】
1回　①　自分の言葉で語る。
演劇の基礎。シアターゲームなどを用いて，自分の思いを自分の言葉で語る。
2回　②　声の拡大。心理の拡大。
発声の基礎。「走れメロス」を用いて心理的極限状態の声をさぐる。
3～6回　③　戯曲の台詞を読む。（わらび座の上演作品から抜粋）
読み合わせ。役の台詞を読み，心理の変化を探る。
④　演劇演習　（わらび座の上演作品から抜粋）
立ち稽古。しっかりと相手役と会話をする。
7回　⑤　まとめ　　成果発表。
8～１４回　実技を交えながら進める。
①「話す前に”姿”有り」　話すことのトータルな部分を学ぶ
②自己紹介「自分を印象づけるには…」
③新聞・雑誌の記事の中から…「３分～４分くらいのスピーチを」
④その場でのスピーチ
⑤朗読「資料有り」
１５回　最終日は「自分の○○が好きになりました」のテーマでスピーチ
☆大きな出来事があった時は，タイムリーに取り上げ，スピーチをしてもらう。

授業に関連するキーワード

成績評価の方法

成果発表時の実技，授業時の発表と期末のレポートにて評価する。
台詞の理解力があるか、多様な心理変化の表現が的確かどうか、会話が成立しているか、などを特に重視する。

教科書・参考書等

【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄

プリントを配付し演習を行う。参考文献はその都度紹介する。

自由記述欄

『人は一人にあらず』相手を認めることができるかどうか，社会人としての基本を学んでいきたい。

科目コード	51931001	単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田大学論－がんばれ！秋大生－	開講学期等	後期前半	時間割	水1・2
授業科目名英字	Lecture on Akita University :Encouraging Messages from Guest Teachers				
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目		履修する際に前提とする授業科目	特になし		

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟１階事務室	018-889-3193				

オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
社会から秋田大学・秋田大学生に対する評価・期待について学ぶ。	・大学生活を通じて身につけるべき能力について説明できる。 ・秋田大学で学ぶことに対しての意欲を高める。

カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標１．「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」及び， 目標５．「知性・情操・身体の各面における教育を通じて豊かな人間形成を目指す」に密接に関連する科目である。
授業の概要	【授業の概要】 「秋田大学論」では，本学役員や秋田県内各界のゲストティーチャーが，社会から見た秋田大学，秋田大学の在学生及び卒業生への期待，将来展望等について講義します。講義を通じて秋田大学の現状について多面的に理解するとともに，秋田大学でどのような学生生活を過ごすか，何を学ぶか，どのような形で社会と関わっていくかについて，深く考察してほしいと思います。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定と進め方】 各回の講義担当者は，決定次第，掲示によりお知らせします。

授業に関連するキーワード			
	秋田大学	大学生	教養教育
	ゲストティーチャー	外部評価	社会参加

成績評価の方法	・毎回の授業の最後の10～15分を使って，小レポートを記入し，提出してもらいます。これを成績評価の対象とします。 ・小レポートに書く内容は講師から直接指示がある場合もあります。特に指示がない場合は，授業内容を表すキーワードを自分なりに設定し，授業内容をふまえた自分の考えを論述してください。最低でも200字以上記入してください。 ・小レポートの未提出が３回に達した時点で不可とします。ただし，「毎回小レポートを提出してさえいれば単位認定される」わけではありません。 ・遅刻は一切認めません。授業開始時間は８時５０分です。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特に使用しません。
自由記述欄	

科目コード	51941005	単位	1	時間数	15
授業科目名	情報と知識・技術ＩＢ－実際に役立つ学習技術－	開講学期等	後期前半	時間割	火7・8
授業科目名英字	Information Literacy in academic studies IB				
備考	50名以内	授業の形式	講義・演習	必修・選択	選択
		受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	図書館概論，図書館サービス概論，図書館経営論	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
附属図書館長	附属図書館	2272	018-889-2272				

オフィスアワー	【曜日及び時間】		【場所】	

授業の目的	授業の到達目標
大学で学ぶにあたって必須となる学術情報について知り、自分の学習・研究に必要な参考文献を調査・選択し、レポート・論文としてまとめるためのスキル（情報リテラシー能力）を獲得する。	１）学術情報全般の基礎がわかる。 ２）秋田大学附属図書館の基本的な利用方法がわかる。 ３）秋田大学の図書検索システムOPAC等を利用して目的の図書・雑誌等を検索できる。 ４）各種データベースで情報や論文を検索でき、電子ジャーナルを入手できる。 ５）レポート・論文のまとめ方の概要がわかる。

カリキュラム上の位置付け	課外の学習を進めるに当たって，図書館と学術情報の利用に習熟することは必要不可欠であり，その意味では本科目は全カリキュラムの最初に位置するものである。また，教育文化学部における，学校図書館司書教諭及び図書館司書資格取得のための授業とも関連している。
授業の概要	授業は講義と演習で行います。演習ではコンピュータを使って実際に情報検索を行います。
授業の進行予定及び進め方	【進行予定】 1．学術情報概論 / 図書館利用方法 2．レポート・論文を書くために(DVD) 3．蔵書検索方法Ⅰ 図書の検索 4．学術文献の基礎知識 5．事柄・統計・専門資料の調べ方 6．蔵書検索方法Ⅱ 雑誌の検索 / 雑誌論文の探し方Ⅰ 7．雑誌論文の探し方Ⅱ 8．講評・試験 講義：附属図書館長　演習：図書館職員

授業に関連するキーワード			
	情報検索	インターネット	図書館
	学術情報	情報リテラシー	

成績評価の方法	学習態度（30%）、課題（10%）試験（60%）とし、総合60%を合格とする。 欠席3回の時点で評価はDとする。 成績不振者、出席日数が足りない者に対して、レポート提出や追試験などの救済措置は行わない。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】
	教科書	『情報探索ガイドブック 2014』	秋田大学附属図書館		2014

教科書・参考書等に関する記述欄	「情報探索ガイドブック 2014」は図書館で配布
自由記述欄	受講者の上限を50名とする。上限を超えた場合には抽選を行う。（前期登録期間中に上限に達していない場合で、第1回目の授業で上限を超えた場合には、その場で前期登録期間中の未登録者で抽選を行う。）

科目コード	51931002	単位	1	時間数	16
授業科目名	キャリアデザイン基礎	開講学期等	後期前半	時間割	木7・8
授業科目名英字	Carrier Design Basic				
備考	平成27年度前期開講科目「キャリアデザインⅠ」，後期開講科目「キャリアデザインⅡ」を受講するためには，本講義の単位を取得している必要がある。	授業の形式	講義・学生参加型	必修・選択	選択
		受講対象学生	1年次		
内容的に密接に関係する授業科目	キャリアデザインⅠ，キャリアデザインⅡ，キャリアデザイン総論	履修する際に前提とする授業科目			

【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
菅原　良	教育推進総合センター	学生支援棟１階	018-889-3057				

オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜3・4時限	【場所】	学生支援棟１階

授業の目的	授業の到達目標
後悔しない進路選択を行うためには，低年次からキャリアデザイン（将来設計）を意識しながら，自らの置かれている立場と将来に目を向け，主体的自律的に考え，行動することが不可欠である。 本講義は，これらの問題意識に立ち，キャリアデザインを行うことの重要性と必要性を考える契機を提供するものである。 そのためには，「仕事を理解すること（仕事理解）」「自分を理解すること（自己理解）」が重要である。 本講義では，「仕事理解」について学ぶ。	本講義では，それぞれの学生が目標を設定し，それに向かって主体的に考え，行動していくことができる基礎的な能力の習得を目指す。

カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標に，「社会の変化に柔軟に適応できる幅広い教養と深い専門性，豊かな人間性と高度の倫理性を備え，社会の発展に貢献できる人材を養成します」，「地域の文化的・経済的発展に貢献できる人材を養成します」とある。 本講義は，これらの目標の具体化を目指すものである。
授業の概要	本講義は，キャリアデザインを行うことの重要性と必要性を考える契機を提供するものである。 キャリアデザインを行っていく上では，「仕事を理解すること（仕事理解）」「自分を理解すること（自己理解）」が重要であるが，本講義では，「仕事理解」について学ぶ。
授業の進行予定及び進め方	第１回　ガイダンス（講義の目的，問題意識，キャリアデザインの重要性，本講義で学んで欲しいこと，評価方法等について） 第２回　実習（ジェネリックスキル測定テスト） 第３回　講演（外部講師による講演） 第４回　実習（キャリアポートフォリオの使い方） 第５回　講演（外部講師による講演） 第６回　講義（ジェネリックスキルレポートの読み方） 第７回　講演（外部講師による講演） 第８回　試験 ＜注意＞

授業に関連するキーワード			
	キャリアデザイン	キャリア教育	社会人基礎力
	ジェネリックスキル	PROG	

成績評価の方法	・レポート3回（3×10%），試験（50%），学習態度（20%）。 ・総合60%を合格とする（ただし，上記のうちいずれかが0%の場合は不合格とする）。

教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】

教科書・参考書等に関する記述欄	必要に応じて配付する
自由記述欄	悔いの残らない進路選択（将来設計）ができるように，その指針となるような多くの情報を提供していきたい。